

エコアクション21

環境経営レポート

2021年度版試行運用版
(運用期間:2021年11月～2022年1月)



発行日:2022年2月18日

海郷株式会社

目 次

1. 組織の概要	1
2. 認証・登録の対象範囲	1
3. 環境経営方針	2
4. 環境経営目標	3
5. 環境経営計画	4
6. 環境経営計画に基づき実施した取組内容	5
7. 環境経営目標及び環境経営計画の実施・取組結果と その評価の実績、並びに今後の取組	7
8. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価 の結果、並びに違反、訴訟等の有無	10
9. 代表者による全体評価と見直しの結果	10

1. 組織の概要

- (1) 事業所名 海郷株式会社
代表者氏名 代表取締役 水頭 元嘉 (スイトウ モトヨシ)
- (2) 所在地 本社・カット場 〒841-0043 佐賀県鳥栖市水屋町1934-1
パック加工場 〒841-0024 佐賀県鳥栖市原町字中尾1290-1
- (3) 環境管理責任者 営業部 部長 宮寄 幸一 (ミヤザキ コウイチ)
連絡担当者 営業部 伊藤 善範 (イトウ ヨシノリ)
連絡先 TEL 0942-87-8771 FAX 0942-87-8772
Eメールアドレス motsuito@umisato.co.jp
- (4) 事業の内容 水産物輸入買付卸売業(主として冷凍釣り餌)
URL <https://www.umisato.co.jp>
- (5) 事業の規模 総売上額: 1, 239百万円(2020年度)
- | 区分 | 単位 | 事務所 | 本社カット場 | パック加工場 | 合計 |
|------|----------------|-----|--------|--------|-----|
| 従業員数 | 人 | 16 | 5 | 5 | 26 |
| 延床面積 | m ² | 120 | 240 | 360 | 720 |

- (6) 事業年度 6月～翌年5月

2. 認証・登録の対象範囲

- (1) 対象事業所 本社・カット場、パック加工場
- (2) 対象活動 釣り餌用水産物の仕入、輸入、加工、卸売事業
- (3) 対象外事業所・活動 なし(全組織・全活動を対象)

環境経営方針

<環境経営理念>

私たち、海郷株式会社は『法令遵守』を経営理念として掲げ、環境に配慮した事業活動を行い、特に社員の結束を強みとして、人と自然が共生できる環境づくりに取り組んで参りました。

今、私たちは、こうした事業活動に伴うエネルギーや資材の使用が地域及び地球の環境に影響を与えていていることを十分に自覚し、全社をあげて環境問題に積極的に取り組み、環境経営の継続的改善により、持続可能な社会づくりに貢献して参ります。

<環境行動指針>

当社の環境経営理念に基づき深刻化する環境問題への対応を経営上の最重要課題とし、以下の事項について自主的、積極的、継続的に取り組みます。

1. 当社の事業に関連する環境関連法規等を遵守します。
2. 当社は下記事項を重点項目として、環境活動を計画的に取り組み実施します。
 - (1) 電力、燃料等のエネルギーの効率的な使用及び省エネに努め、二酸化炭素排出量を削減します。
 - (2) 廃棄物排出量の発生抑制とリサイクルを推進します。
 - (3) 節水に努め、水使用量を削減します。
 - (4) 当社の主要製品である釣り餌が利用される釣り場の環境改善、維持に貢献できる製品の生産、買い付け、販売に努めます。
 - (5) 地域及び釣り場の環境保全活動に積極的に参加、この活動を通して釣り場環境の改善と社員、釣り人、地域住民の意識向上と啓蒙に努めます。
3. 当社の毎年の環境への取組状況を環境経営レポートにとりまとめ、全社員に周知させ、一般にも公表します。

制定日 2021年10月1日

海郷株式会社

代表取締役社長 水頭 元嘉

4. 環境経営目標

- ・環境経営目標は、当社の事業活動を踏まえて、2021年度と2022年度～2024度までの中期目標として、以下の4項目8目標を設定しました。
- ・主要な環境負荷である二酸化炭素排出量と水使用量については、基準年(2020年度実績値)を基準に、毎年1%ずつ削減し、2024年度までに4%削減を目指します。
- ・事業活動で取り組む本業目標については、「釣場環境の維持、改善」を掲げ、全社をあげて取り組んで環境経営を推進していきます。
- ・なお、今回の試行運用期間の数値目標は、基準年同期間の実績値に削減率を乗じて設定しました。

環境経営目標	単位	基準年 2020年度 実績値	単年度目標	中期目標		
			2021年度 (1%削減)	2022年度 (2%削減)	2023年度 (3%削減)	2024年度 (4%削減)
		2020.6～ 2021.5	2021.6～ 2022.5	2022.6～ 2023.5	2023.6～ 2024.5	2024.6～ 2025.5
1. 二酸化炭素排出量の削減	kg-CO ₂	248,840	246,350	243,860	241,370	238,890
①電気使用量の削減	kWh	153,917	152,380	150,840	149,300	147,760
②ガソリン使用量の削減	ℓ	2,242	2,220	2,200	2,170	2,150
③軽油使用量の削減	ℓ	65,858	65,200	64,540	63,880	63,220
2. 廃棄物排出量の削減						
①一般廃棄物(可燃ごみ)排出量の削減	kg	29,358	現状把握	2021年度実績から目標を設定する		
②産業廃棄物のリサイクル率向上	% (リサイクル率)	100	現状把握	2021年度実績から目標を設定する		
3. 水使用量の削減	m ³	414	410	410	410	400
4. 環境に配慮した事業活動の推進						
①釣場環境維持、改善を訴求した製品の開発、販売促進	百万円 (販売実績)	186	188	190	192	193
②釣人が気持ちよく釣りを楽しめる釣場環境の維持、改善の為の活動推進	回	3	3	5	6	6

備考)・購入電力の二酸化炭素排出係数は、0.479kg-CO₂/kWh(九州電力(株)2020年度調整後排出係数)を使用した。

・()内の数値は、基準年(2020年度実績値)に対する削減率を示す。

・サイト区分の全社とは、事務所+現場を示す。

5. 環境経営計画

前出4項において環境経営目標を設定し達成するため下記具体的取組みを策定し、責任者及び全社員一丸となって取り組みました。

1. 二酸化炭素排出量の削減

活動項目	責任者	達成手段	担当者	スケジュール
①電気使用量の削減	宮寄	1. 本社事務所の室温は、冷房期28℃、暖房期20℃とし、エアコンで調節する	二見	冷房期：5～9月 暖房期：11～3月
		2. 不要な照明の消灯・業務外時間のパソコン、プリンターの電源OFF	二見	通年
②ガソリン使用量の削減	宮寄	1. 急減速、急加速、無駄なアイドリングはさける	水頭、邊	通年
		2. 公共交通機関利用促進	水頭、邊	通年
③軽油使用量の削減	伊藤	1. 急減速、急加速、無駄なアイドリングはさける	権藤	通年
		2. 不用品を車両から降ろして車両の軽量化を図る。	権藤	通年
		3. 保冷庫温度保持のための夜間アイドリングの削減	権藤	通年
		4. 車両の点検、タイヤ圧の適正管理、車内の整理整頓による効率運行に努める。	権藤	通年

2. 廃棄物排出量の削減

活動項目	責任者	達成手段	担当者	スケジュール
①一般廃棄物（可燃ごみ）排出量の削減	宮寄	1. 資源ごみと燃えるごみを分別して重量を計測し記録する	紫村	通年
		2. 裏紙使用を徹底し、コピー用紙の使用量を削減する	弥永	通年
		3. 適正な廃品回収業者を使用し、正確な重量を測定し実態を把握する。	宮寄	通年
②産業廃棄物のリサイクル率の向上	宮寄	1. 現場における廃棄物の分別徹底	紫村	通年
		2. マニフェストの管理を確実に行い、リサイクル率の把握と向上を図る。	宮寄	通年

3. 水使用量の削減

活動項目	責任者	達成手段	担当者	スケジュール
①水使用量の削減	宮寄	1. 日常の節水・漏水の点検	紫村	通年
		2. 水の使用場所には節水シールを貼り、節水を喚起する。	伊藤	通年
		3. 洗車時には節水に心がける。	伊藤	通年

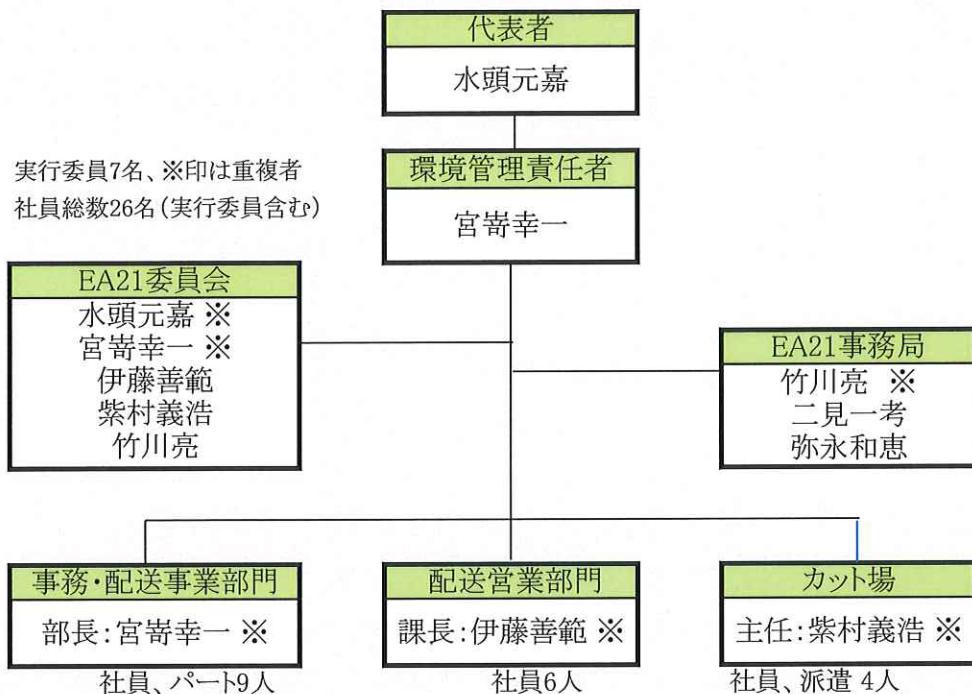
4. 環境に配慮した事業活動の推進

活動項目	責任者	達成手段	担当者	スケジュール
①釣場環境維持、改善を訴求した製品の開発、販売促進	宮寄	1. 環境保全を訴えるコピーを表示したパッケージの製品販売拡大	伊藤	通年
		2. 環境にやさしい添加物を使用した加工品の開発と販売促進	竹川	通年
②釣場環境の維持、改善の為の活動推進	宮寄	1. 釣場環境維持のため、自社独自もしくは業界団体と一緒に定期的に釣り場の清掃を行う	紫村	通年
		2. 釣場環境維持のため、当社HPや商品パンフレットなどを通して釣り人のマナー向上、釣場環境維持、改善のための啓蒙活動を行う	伊藤	通年

6. 環境経営計画に基づき実施した取組内容

- ・2021年度試行運用期間に当社が実施した環境への取組は、以下のとおりです。
- ・なお、実施に当たっては、社内に次のような実施体制を構築して、全社員が一丸となって実施しました。

(1) エコアクション21実施体制



(2) 2021年度試行運用期間に実施した環境への取組

環境負荷を削減する取組



環境負荷を削減する取組

裏紙の活用



ごみ減量

マニフェスト管理表綴り



節水喚起札



水の減量

節電喚起シール(電気、エアコン)



CO₂削減

環境を良くする取組

天然素材の
添加材使用



環境共生

MSC(Marine Stewardship Council、
海洋管理協議会)認証、資源管
理されたオキアミの取り扱い

CERTIFIED
SUSTAINABLE
SEAFOOD
MSC
www.msc.org



釣人への環境保全啓発



地域共生

釣場環境清掃活動



7. 環境経営目標及び環境経営計画の実施・取組 結果とその評価の実績、並びに今後の取組

(1) 環境経営目標の実績

- ・今回の2021年度試行運用期間の環境経営目標達成状況は以下のとおりであり、設定した環境経営目標4項目8目標のうち、二酸化炭素排出量、軽油使用量、環境配慮製品の販売促進を除き、3項目4目標で目標を達成できました。なお、産業廃棄物排出量については、2020年度の数値把握ができないないため、本試行期間は現状把握としました。
- ・二酸化炭素排出量については、営業用配送車が昨年の7台に対し、今年度は1車増車し8台としたこと、かつ営業活動、配送車の稼働を昨年より上げたことより、軽油使用量が昨対比117%となり、全体の二酸化炭素排出量も目標を上回りました。
- ・一般廃棄物と産業廃棄物については、昨年11月までの回収業者では実態把握ができなかったことより、同11月途中から(有)環境開発センターに切り替え、現状把握に努めるようしました。またマニフェストも今年2月から電子マニフェストに切り替え、業務の簡素化を図りました。
- ・本業目標とした「環境配慮製品の販売促進」については、1月が目標を大きく下回り、全体で販売未達成となりました。「釣場環境の維持、改善の為の活動」については、計画通り今期1回のみ実施しました。

環境目標	単位	2021年度試行運用期間 (2021年11月～2022年1月)		目標 達成率 ※2	目標 達成評価 ※3
		目標 ※1	実績		
1. 二酸化炭素排出量の削減	kg-CO ₂	58,209	59,678	98%	△
①電気使用量削減	kWh	36,093	23,419	154%	◎
②ガソリン使用量削減	ℓ	606	500	121%	◎
③軽油使用量削減	ℓ	15,316	18,024	85%	△
2. 廃棄物排出量の削減					
①一般廃棄物排出量の削減	kg	現状把握	2,982	—	—
②産業廃棄物のリサイクル率の向上	% (リサイクル率)	現状把握	100	—	—
3. 水使用量の1%削減	m ³	98	60	164%	◎
4. 環境に配慮した事業活動の推進					
①環境配慮製品の販売促進	該当製品販売額(千円)	48	42	88%	△
②釣場環境の維持、改善の為の活動推進	実施回数	1	1	100%	○

備考)※1 目標値は基準年(2020年度)の同期間実績値から削減率を乗じて設定した。

※2 目標達成率の計算 目標 ÷ 実績 × 100(削減目標の場合)、実績 ÷ 目標 × 100(増加目標の場合)

※3 評価区分 ◎: 目標達成率 ≥ 120% ○: 100% ≤ 達成率 < 120% △: 80% ≤ 達成率 < 100% ×: 達成率 < 80% —: 判定不可

※4 化学物質は自社事業活動で使用していないため、環境経営目標から除外した。

(2) 環境経営計画の実施・取組結果とその評価

・2021年度試行運用期間中の環境経営計画の実施状況は以下のとおりであり、設定したほとんどの項目で取組が実施できたが、良好な成果を上げたものと目標設定が現状と合っていないため、全体として未達成となったものがあります。。

1. 二酸化炭素排出量の削減

活動項目	達成状況	達成手段	実施状況	評価
①電気使用量の削減	◎	1. 本社事務所の室温は、冷房期28℃、暖房期20℃とし、エアコンで調節する	◎	<現状> ・電気使用量については、左記取り組みの他、昨年3月にカット場自社冷蔵庫の冷凍機を交換したことにより削減目標を達成しました。
		2. 不要な照明の消灯・業務外時間のパソコン、プリンターの電源OFF	◎	
②ガソリン使用量の削減	◎	1. 急減速、急加速、無駄なアイドリングはさける	◎	<現状> ・昨年配達車1台を増車したことにより、左記取り組みにも関わらず軽油使用量は逆に増加となった。
		2. 公共交通機関利用促進	△	
③軽油使用量の削減	△	1. 急減速、急加速、無駄なアイドリングはさける	◎	<現状> ・これらの結果として残念ながら二酸化炭素排出量の削減目標も未達成98%となつた。
		2. 不用品を車両から降ろして車両の軽量化を図る。	◎	
		3. 保冷庫温度保持のための夜間アイドリングの削減	○	<今後> 現在の取組を継続する。
		4. 車両の点検、タイヤ圧の適正管理、車内の整理整頓による効率運行に努める。	◎	

備考) 達成状況判定区分 ◎：目標達成率 $\geq 120\%$ ○：100% \leq 達成率 $< 120\%$ △：80% \leq 達成率 $< 100\%$

×：達成率 $< 80\%$ —：判定不可

実施状況判定区分 ◎：よく実施されている（定着状態） ○：実施されている

△：ほぼ実施されている ×：実施されていない —：判定不可

2. 廃棄物排出量の削減

活動項目	達成状況	達成手段	実施状況	評価
①一般廃棄物排出量の削減	現状把握	1. 資源ごみと燃えるごみを分別して重量を計測し記録する	◎	<現状> ・従来、一般廃棄物の把握が不十分であったが11月より回収業者を変更、実態把握が可能となった。 <今後> ・現在の取り組みを更に深化させ、廃棄物削減、資源の有効活用につなげていく。
		2. 裏紙使用を徹底し、コピー用紙の使用量を削減する		
		3. 適正な廃品回収業者を使用し、正確な重量を測定し実態を把握する。		
②産業廃棄物のリサイクル率の向上	◎	1. 現場における廃棄物の分別徹底	◎	<現状> ・良く取り組みができる。 <今後> ・現在の取組みを継続する。
		2. マニフェストの管理を確実に行い、リサイクル率の把握と向上を図る。		

3. 水使用量の削減

活動項目	達成状況	達成手段	実施状況	評価
①水使用量の削減	◎	1. 日常の節水・漏水の点検	◎	<現状> ・良く取り組みができる。 <今後> ・現在の取組みを継続する。
		2. 水の使用場所には節水シールを貼り、節水を喚起する。		
		3. 洗車時には節水に心がける。		

4. 環境に配慮した事業活動の推進

活動項目	達成状況	達成手段	実施状況	評価
①釣場環境維持、改善を訴求した製品の開発、販売促進	△	環境保全を訴えるコピーを表示したパッケージの製品販売拡大	△	<現状> ・販売、環境維持活動はできたが、十分な成果を上げることができなかった。新しい商品の開発やHPでの取り組みが十分ではなかった。
		環境にやさしい添加物を使用した加工品の開発と販売促進	△	
②釣場環境の維持、改善の為の活動推進	△	釣場環境維持のため、自社独自もしくは業界団体と一緒に定期的に釣り場の清掃を行う	○	<今後> ・HPの整備を進める他現在の取組継続
		釣場環境維持のため、当社HPや商品パンフレットなどを通じて釣り人のマナー向上、釣場環境維持、改善のための啓蒙活動を行う	△	

(3) 今後の取組

1) 環境経営目標について

- 各目標については、実行できたもの、実現できなかったもの、現状把握が様々な目標、課題が残っている。
- しかしながら、各目標については、本試行期間開始の前に検討を重ね設定したものであり、試行期間が終了した2021年度の残り4ヶ月はこのままとし現状を把握、2022年度開始時に見直しとしたい。

2) 環境経営計画について

- 一般廃棄物排出量と産業廃棄物について、今後も引き続き現状把握に努め、具体的な数値目標の設定を目指します。
- 二酸化炭素排出量未達成の原因である軽油について、配送車（保冷車、トラック）1台増車に起因すると思われることから、現状把握と現在の取り組みの成果を残り4か月間で把握し、より現実的な目標が設定できるようにします。
- その他、環境配慮製品及び当社販売活動全体の強化を図っていきます。
- その他の取組項目については、「5. 環境経営計画」に基づき今年度残り期間も継続して取り組みます。

8. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟等の有無

- 当社の事業活動、製品及びサービスに適用される主な環境関連法規等は、以下のとおりです。
- 2021年度試行運用期間中の事業活動に対して、2022年1月に環境関連法規等の遵守状況を確認・評価した結果、全ての法律で遵守を確認し、違反はありませんでした。
- また、関係機関等からの違反の指摘、利害関係者からの訴訟も過去3年間ありませんでした。

適用される法規等	適用される事項(施設・物質・活動等)	評価
廃棄物処理法	一般廃棄物及び産業廃棄物の管理・排出マニフェストの交付・回収・保管の適正処理	○
家電リサイクル法	製品廃棄の際の適正な引渡し、処理料金の支払い	○
自動車リサイクル法	使用済自動車の引渡し義務	-
フロン排出抑制法	業務用エアコンの簡易定期点検の実施	○

備考) 評価区分 ○: 遵守 ×: 不遵守 -: 該当なし

9. 代表者による全体評価と見直しの結果

- 今回の2021年度試行運用期間終了後に、代表者による取組状況の全体評価と、計画の見しの必要性を検討しました。結果は、以下のとおりです。

(1) 取組状況の全体評価

- 環境経営の取組みは、当社として初めてであり、現状や実態把握が十分になされてこなかった、正に〇の状態から佐賀県、エコアクション21地域事務局、コンサルの先生のご指導により、環境目標を設定、手探りでエコアクション21のシステムをまがいなりにも3ヵ月間回し、試行期間を終えることができました。
- そのため、この3ヵ月間は環境管理責任者、EA21委員会メンバー、事務局メンバーを始め全社員での取り組みとなり、皆さんに多大な労苦をかけたことと思います。しかしながら現在、システムとしてほぼ仕組みができ上がり、かつ回りだしていますので、社員各位の努力に感謝したいと思います。
- 各取り組み内容については、まだまだ現状の把握が必要なもの、設定した目標が現実にそっていないもの、数値の取り方が実際の期間と合致していないものなどがあり、今後も継続してシステムを運営し、その精度と取り組みの実効性を高めることが必要だと考えています。

(2) 見直しについて

- (1)項の状況より、現在の試行期間終了時点で特に見直すことはなく、まずは正確な数値の把握やエコアクション21のシステムを確実に回し、PDCAサイクルを確立、社内で習慣化することが必要だと考えますので、2021年度残り4か月は現在の目標、取り組み内容で進めてまいります。

- また、レポート作成についても新ガイドラインの要求事項を踏まえて、社内ののみならず、社外の皆様が読まれて当社の取り組み内容を理解頂けるよう読み手側に立った読みやすい、見やすい内容となるよう工夫して行きたいと思います。



海郷株式会社

代表取締役社長 水頭 元嘉